

「授業改善のための学生アンケート」2017年度前期 顕彰授業における工夫

2017年10月12日

白百合女子大学 FD 推進委員会

2017年度前期「授業改善のための学生アンケート」の顕彰授業における工夫をご紹介します。授業のあり方は授業の数だけありますが、顕彰された授業における工夫を知ることにより、よりよい学びのためのヒントが得られる機会になればと願っています。


【参考】 顕彰の対象となったアンケート項目は以下の9項目です。

- Q3 この授業に主体的に取り組むことができましたか。
- Q4 この授業の内容を十分に習得できたと思いますか。
- Q6 教員の話は聞き取りやすかったですか。
- Q7 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。
- Q8 教科書や配付資料など、教材は適切だったと思いますか。
- Q10 学生の質問や相談に対して、教員は適切に対応していたと思いますか。
- Q11 教員の説明や指示は教室全体に正確に行き届いていたと思いますか。
- Q12 この授業の目的や到達目標を十分に理解できましたか。
- Q13 この授業の内容に興味を持つことができましたか。

少人数部門

「祈りと女性演習A」 海老原 晴香（カトリック教育センター） 2017水4前

「祈りと女性演習A」では、キリスト教思想の伝統の中で大切にされてきた、いわゆる「神秘思想」のジャンルに含められる文献から、『神の愛の啓示』という中世イングランドの作品を現代英語で講読いたしました。キリスト教神秘思想について、また原典の著者である隠修女ノリッジのジュリアンについて、参加して下さったいずれの学生さんももちろん全くなじみがありませんので、講読量をこなすことよりも、こうした著作にふれることの面白さと奥深さをそれぞれに発見できる機会になれば、と意識して臨みました。具体的には各授業時間の英文読解の合間に、著者も身をささげていたであろう修道生活に関する映像等の資料を視聴して著作が綴られた場の空気感を皆で想像し意見交換をしたり、そもそも参加者各々が抱えている言葉のイメージは共有されているのかという問いのもと、「神秘」「祈り」といった語をテーマにマインドマップを利用し自由に話をしていただく時間を設けたりしました。こうした時間の中で、学生さんの方から著作に対するものに加え、キリスト教の思想、文化、習慣等に関する質問や感想も自然に挙がるようになり、クラス全体で文献への理解を深めていくうえで、教員としても大変助かりました。講読の場面では、各自の予習の段階でわからなかった部分があった場合、まずは他の参加者がフォローを試みる体制をとり、連帯感と一定の緊張感を維持できるよう留意しました。



多人数部門

「創作文化研究Ⅰ」 やた みほ（人間総合学部児童文化学科） 2017 金 3 前

Q3、Q12

昨年度、「創作文化研究」を担当するにあたり、地域交流イベントにつながるような内容にしてもらいたいという要望がありました。地域の子も達が楽しめる作品を学生たちに作ってもらうにはどうしたらよいか？と考えることから始まり、映像を用いた表現活動を講義に取り入れることに決めました。昨年せんがわ劇場で行ったイベントの映像には、学生たちが作ったドラマを見て子ども達が笑っている様子が記録されていました。自分も子どもたちを笑わせられる映像を作りたいという目的意識を持てたことが、主体的に取り組めた要因ではないかと思われま

Q4、Q13

映像を作るには色々な役割分担があります。シナリオを作る、カメラを回す、演じる、衣装を考える、小物を作る。グループごとにそれぞれうまく役割を分担でき、個性に応じた役目が担えたことが個人の満足につながったのかも知れません。また、映像を作る手法を限定しなかったため、カメラに映ることに抵抗がある学生は人形やお面を用いて無理せず制作に取り組めたのかと思

Q6～Q8

児童演劇の役者さんをゲストに招いて学生が書いた台本を読んでもらったり、演劇について語ってもらったりしたことが生きた教材として役に立ったのかと思われま

Q10、11

映像を見るためには Windows パソコン教室を使い、編集をするためには Mac パソコン教室を使いました。今までパソコンを使うことが苦手だと思っていた学生でも、使い方を少し教えてただけですぐに使いこなせるようになりました。グループ制作のため、リアクションペーパーに書いてもらった内容から足りないものが読み取れ、個別に対処することができました。